

畜産の担い手がセミナー活動の1年間を振り返りました

畜産の新しい担い手として就農後5年目までの方（以下 セミナー生）を対象にした農業セミナー（畜産コース）を開催しました。令和4年6月の開講式を皮切りに、1～2か月に1回の巡回指導や先進的な経営に取り組む畜産農家を講師とした集合研修などを実施し、3月13日（月）に1年間の活動を締めくくる閉講式を実施しました。

閉講式は、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底するため、かながわ農業アカデミーの講義室を会場としました。当日は、6月の開講式と同様に強い雨の降る悪天候でしたが、酪農3名、採卵鶏2名（就農2年目2名、3年目1名、4年目1名、5年目1名）、合計5名のセミナー生が参加しました。

6月の開講式では、セミナー生同士が初対面であったため、緊張から会話もぎこちない雰囲気でしたが、約10ヶ月間の農業セミナーを経験し、普及指導員の指導やセミナー生相互に農場を訪問するなどの交流を重ねてきたことで、お互いをこれからの畜産を担う「仲間」と認め合うなど、打ち解けた雰囲気です。

まずは、畜産に関する基礎知識の習得のため、全ての畜種に共通の話題である「寒冷対策について」普及指導員からの講義を受講しました。続いて、各自の技術や知識の習得具合を可視化するために、「農業セミナー巡回チェックシート」を用いて1年間の活動を振り返りました。これは、飼養管理、経営技術、衛生管理、生活技術、ネットワークの各項目について、普及指導員の助言を受けながら採点し、昨年6月の採点と現在の採点を比較し、1年間の技術や知識の習得状況を確認するものです。

最後に、採点したチェックシートにより明らかとなった「出来た点」、「出来なかった点」を各自が発表するとともに、セミナー生同士の意見交換を行いました。意見交換では、開講式で見られたぎこちなさはなく、セミナー生同士で互いの発表にコメントするなど、積極的にコミュニケーションをとる姿は頼もしく感じられました。

なお、閉講式を欠席したセミナー生に対しては、後日個別に巡回してチェックシートを作成するなど、1年間のセミナー活動の振り返りのフォローを行いました。

年間を通して農業セミナーを実施することで、セミナー生の成長に合わせた指導を継続するとともに、普及指導員も多くのことを学ぶことができました。

畜産技術センターは、今後ともセミナー生に対する支援を続けていきますが、次年度もセミナー生の成長に合わせて我々もしっかりサポートしていかなければと気が引き締まる思いです。



寒冷対策の講義を熱心に聞くセミナー生



チェックシートの項目を真剣にチェックするセミナー生



セミナー生と普及指導員を交えた記念撮影